

船舶事故調査報告書

平成29年4月27日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 庄司邦昭（部会長）

委員 小須田 敏

委員 根本美奈

事故種類	被引浮体搭乗者負傷
発生日時	平成28年7月17日 10時30分ごろ
発生場所	神奈川県平塚市馬入橋北方（相模川） 萩園 ^{はぎその} 三等三角点から真方位251°1,150m付近 （概位 北緯35°20.3′ 東経139°22.2′）
事故の概要	水上オートバイ ^{スリー ツリー} Theree Treeは、浮体をえい航して遊走中、浮体の搭乗者1人が落水して負傷した。
事故調査の経過	平成28年7月20日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	水上オートバイ Theree Tree、0.2トン 235-49659 神奈川、個人所有 2.89m (Lr) × 1.10m × 0.46m、FRP ガソリン機関、154.5kW、平成23年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 40歳 二級小型船舶操縦士（1海里限定）・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成13年8月21日 免許証交付日 平成23年9月29日 （平成28年9月28日まで有効） 搭乗者A（トルコ共和国籍） 男性 22歳
死傷者等	重傷 1人（搭乗者A）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 水象：水上 平穏
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、搭乗者Aほか知人1人を乗せたトーイングチューブと称する円形浮体を長さ約20mの化学繊維製索でえい航し、平成28年7月17日10時00分ごろ相模川左岸のマリーナを出発し、馬入橋北方で遊走を行っていた。 船長は、時々振り返って円形浮体の状況を確認しながら、約40～50km/hの対地速力で北進し、10時30分ごろ、大きく右旋回した際、円形浮体が横転し、搭乗者2人が落水したのを認め、搭乗者2人

	<p>を本船に揚収して発進場所に戻った。</p> <p>搭乗者Aは、しばらくして気分が悪くなり、救急車で病院に搬送され、胸椎圧迫骨折と診断された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>船長は、水上オートバイの操縦経験が15年以上あり、浮体をえい航した経験が多数あったが、円形浮体のえい航は今回が初めてであった。</p> <p>船長は、本船が右旋回した際、円形浮体が遠心力で振られて横転したものと本事故後に思った。</p> <p>搭乗者2人は、円形浮体の縁に座り、両手で取っ手をつかんでいた。</p> <p>船長及び搭乗者2人は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	あり なし なし <p>本船は、馬入橋北方において、円形浮体をえい航して遊走中、約40～50km/hの対地速力で右旋回した際、円形浮体が、遠心力により振られて横転したことから、搭乗者Aが落水して負傷したものと考えられる。</p> <p>搭乗者Aは、円形浮体が横転して落水した際、負傷したものと考えられるが、負傷に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、馬入橋北方において、円形浮体をえい航して遊走中、約40～50km/hの対地速力で右旋回した際、円形浮体が、遠心力により振られて横転したため、搭乗者Aが落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船長は、浮体をえい航して旋回する際、浮体が遠心力により振られることを念頭に置き、安全な旋回半径及び速力で旋回すること。

付図1 事故発生場所概略図



※国土地理院WEBサイトの地理院地図使用